

胸肋鎖骨間骨化症の1例

滝 鈴佳, 利波紀久, 久田欣一
富田勝郎*, 水上勇治**

要 旨

腰椎の硬化性病変の精査目的で骨スキャンを行った患者において、胸鎖関節、第一肋骨、仙腸関節にも集積増加が認められ、その特徴的なパターンから胸肋鎖骨間骨化症と診断された1症例を報告する。

症 例

65歳、女性。

主 訴；腰痛。

現病歴；1977年頃より体動時軽度の腰痛があった。1987年秋頃より体動時腰痛増強し、当院整形外科を受診。

現 症；特記すべきことなし。

検査成績；WBC 12200, ALP 319 IU/l (88-271), CRP 0.4 mg/dl (<0.3)。上記の値が軽度上昇しているほかは特に異常を認めなかった。

画像診断のポイント

腰椎 X 線写真では、L2 と L5 に硬化性変化が認められた (Fig. 1)。X 線写真からは、転移性骨腫瘍、慢性化膿性脊椎炎、Paget 病、サルコイドーシスなどが疑われた。なお、両側の仙腸関節にも硬化性変化が認められた。さらに精査のため骨スキャン、Ga-67 スキャンが施行された。骨スキャンでは、L2, L5 以外に、両側胸鎖関節、両側仙腸関節にも異常集積が認められた (Fig. 2)。Ga-67 スキャンで

は明らかな異常集積は認められなかった (Fig. 3)。骨スキャンの特徴的なパターンより、胸肋鎖骨間骨化症が疑われた。あらためて患者の病歴を聞きなしたところ、今回受診時の10年前より2年前にかけ

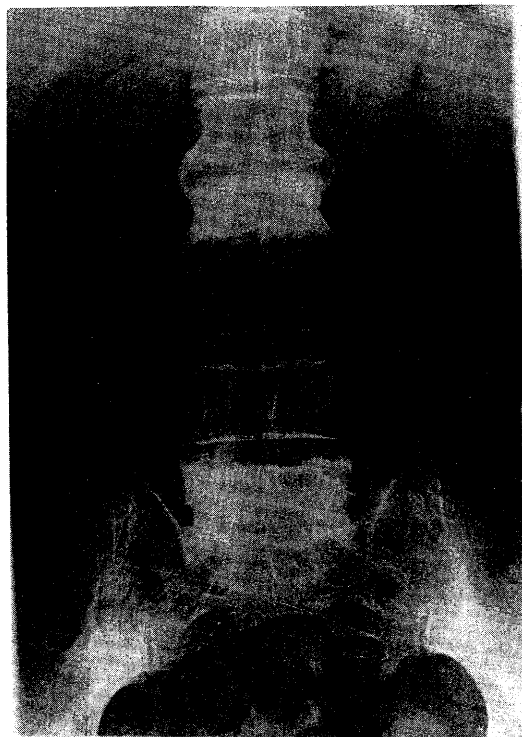


Fig. 1 Lumbar spine radiography. Osteosclerotic changes were recognised in L2, L5 and sacroiliac joints.

A case of sternocostoclavicular hyperostosis

Suzuka Taki, Norihisa Tonami, Kinichi Hisada, Katsuo Tomita*, Yuji Mizukami**

Department of Nuclear Medicine, Orthopedics* and Pathology**, Kanazawa University Hospital
金沢大学医学部核医学科, *整形外科, **病理 〒920 金沢市宝町13-1

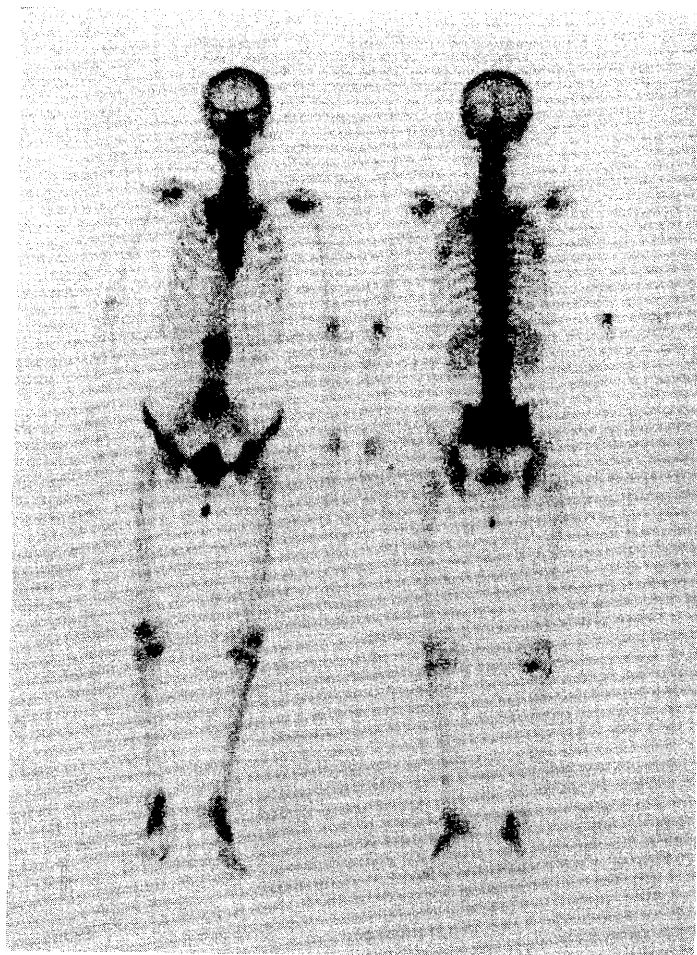


Fig. 2 Whole body bone scintigraphy. Increased uptake was recognized in L2, L5, sacroiliac joints, medial aspects of clavicles, first ribs and sternum.

て掌蹠膿疱症の診断名で近医皮膚科で加療を受けていたことがわかった。しかし今回受診時には皮疹は認められなかった。胸部 X 線写真では両側胸鎖関節の肥厚と硬化が認められた (Fig. 4)。L2 の骨生検が施行され、chronic mild osteomyelitis with mild osteosclerosis の病理診断が得られ、画像診断や臨床所見と合わせて、胸肋鎖骨間骨化症の診断が下された。

考 察

胸肋鎖骨間骨化症 (sternocostoclavicular hyperostosis) は、胸骨、肋骨、鎖骨などに異常骨化を呈するまれな疾患で¹⁾、しばしば掌蹠膿疱症を伴う²⁾。本病態の詳細は不明であり、病理学的には、非化膿

性慢性硬化型骨髓炎である。骨化が進行すると疼痛、腫脹、両肩の運動制限が出現し、また脊椎、仙腸関節などにも変化をきたすようになる。通常、胸鎖関節部の腫脹や疼痛を主訴とするものが多く、X 線写真、CT、骨スキャンなどで診断される³⁾⁴⁾。特に、骨スキャンは X 線写真に比べ早期発見が可能であり、脊椎、仙腸関節、長管骨等、他の骨への病変の広がりについても検索でき、非常に有用である。本症例の場合は、腰痛を主訴とし、受診時手足に皮疹もみられなかったため、診断が難しかったが、骨スキャンの特徴的なパターンから胸肋鎖骨間骨化症と診断することができた。骨スキャンの有用性が確認された症例と思われた。

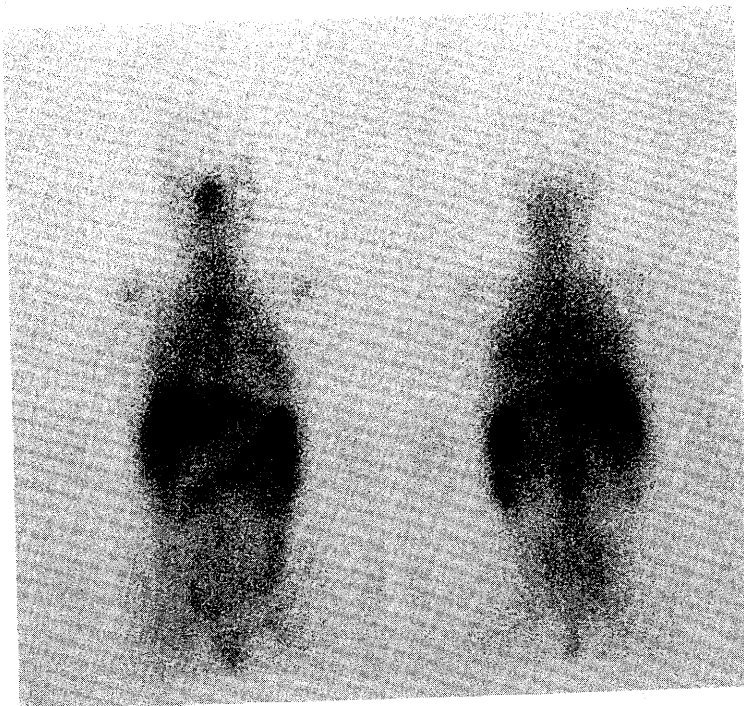


Fig. 3 Ga-67 scintigraphy. No abnormal uptake was noted in the bone lesion.

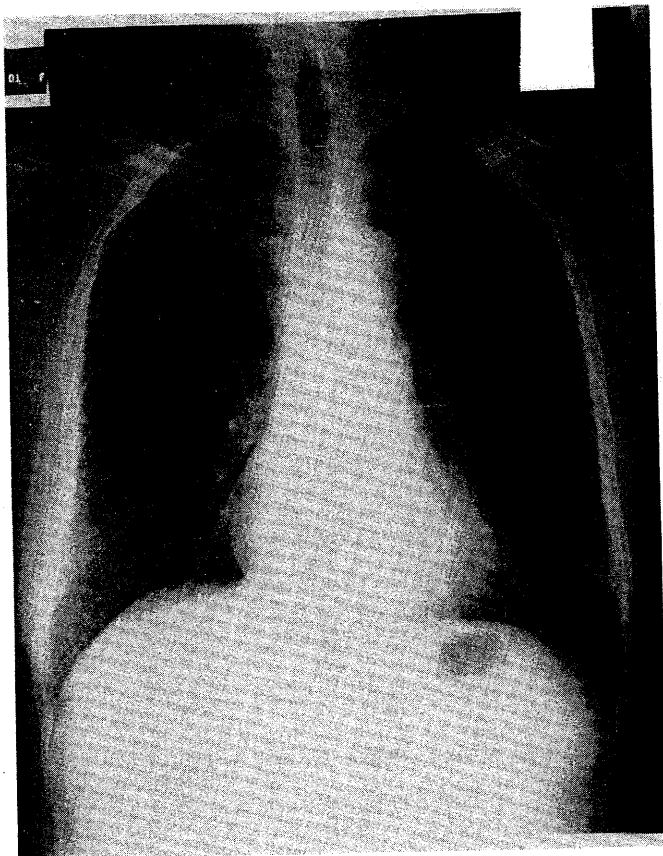


Fig. 4 Chest radiograph. Hyperostotic swelling of the sternal ends of clavicle and the right first rib.

文 献

- 1) Sonozaki H, Furusawa S, Seki H, et al.: Four cases with symmetrical ossification between the clavicles and the first ribs of both sides. Kanto J Ortop Traum 5: 244, 1974
- 2) 小島国利: 胸肋鎖骨異常骨化について. 整形災害外科 23: 527-535, 1980
- 3) Ueno K, Rikimaru S, Kawashima Y, et al.: Bone imaging of sternocostoclavicular hyperostosis in palmoplantar pustulosis. Clin Nucl Med 11: 651-652, 1986
- 4) 村上康二, 藤本 肇, 市川智章, ほか: 大腿骨幹に病変を認めた胸肋鎖骨間骨化症の1例. 臨放 36: 733-736, 1991